

株式会社ママスクエア 代表取締役 藤代 聡さん(89年済卒)

本学卒業後、株式会社リクルートfromエー(現・リクルートジョブズ)に入社。営業部で3,500社のクライアントを担当したのち、事業企画部、メディアプロデューサー、タウンワークの全国展開プロジェクトのプロジェクトリーダーを経て、株式会社ママスクエアを設立する。



未来への
羅金盤

—vol.35—

各業界でトップランナーとして活躍する先輩に、学生記者がインタビュー。今回は、株式会社ママスクエアの創業者として、お母さんたちが働きやすい世の中を実現しようと奮闘する、藤代聡さんにお話を伺いました。

大学を卒業してからのお仕事について教えてください。

獨協大学卒業後リクルートfromエーに入社し、営業として10年、タウンワーク雑誌の立ち上げで5年間勤めた後に独立。2004年に、子ども向け大型遊具があるプレイルームを併設した親子カフェを開業しました。

当時は「カフェ+他事業」という業態自体少なく、名古屋のトランポリンカフェでお話を伺い、試行錯誤しながらの起業でした。その経験を経て「14年に立ち上げたのが、「キッズスペース付オフィス」という子連れで仕事ができる会社、ママスクエアです。

このお仕事を選んだきっかけについて教えてください。

息を引き取るときに「いい人生だった」と思え

る、世の中に「藤代聡という人間が生きていてよかった」と思われるような足跡を残したいと考えました。学生時代から、「努力すれば成果が出て、根気よく取り組むことで多くの人を幸せにできるのは起業だ」と思っていたのです。

その中で親子カフェを選んだのは、児童虐待や育児放棄といった悲しいニュースを見て、子育てでお母さんたちが抱えるストレスに気づいたから。母親と子どもに優しい世の中のためにと、一種の駆け込み寺としてこの業態を選びました。その後、親子カフェで多くの主婦の方たちを雇用していたのですが、その多くは真面目でポテンシャルも高い方々でした。また、面談で話を聞くと、スキルがあっても育児のために働けないという方が多かったのです。そこで、そんな方々が働ける場所をと、現在のママスクエアへの転換を決意しました。

代表取締役として大切にしていることを教えてください。

まずは従業員を幸せにすることが私の責務です。「幸せにする」ために、全員に成長の実感ややりがいを提供したい。私にできるのは、常に挑戦のチャンスを提供し、迷っていればヒントを与えること。会社でどんな問題があっても「代表取締役」という立場にいる以上、私に逃げ場はありません。その覚悟を持って取り組めば、「これは絶対に無理だ」と誰もが諦めるような事態にも挑むことができます。自分のやり方に責任を持って真面目か

ら向かっていく、そして諦めずに乗り越える。その覚悟で日々仕事に臨んでいます。

学生のときにやっておいた方がいいことを教えてください。

この歳になると、人生で何にでもチャレンジできる期間は短いと実感します。社会人には責任があり、周囲の環境にも縛られてしまうもの。しかし学生のうちは、多くのことで失敗しても許されるし、リカバリーできます。そんな時期を無為に過ごしてしまうのはもったいないこと。何事にも果敢に挑戦してみたいです。

そしてもう一つ、色々な人、特に先輩の話を聞きに行ってみてください。獨協大学の卒業生なら、忙しくとも後輩の社会勉強のために時間は惜しみません。就職して会社の色がつく前の「無色」な後輩を応援したいと思っています。これは学生の特権ですから、活かさない手はありません。勇気を出して一歩踏み出せば、新しい何かが見つかります。

メッセージ ～学生の皆さんへ～

- ① チャレンジを恐れない。成功するかわからないことも、学生にはやり直しの機会がある。その期間を活用しよう。
- ② 先輩に話を聞きに行こう。社会人になる前の「無色」の学生だからこそ、会って話してくれる先輩は多い。



学生記者

田中 風羽(英2年)

「いい人生だった」と思いながら息を引き取りたい、そのための足跡を残したいという考えがとても素敵だと思いました。選択の中でより難しい方へチャレンジを重ねることの大切さや事業への一貫した姿勢を学べて良かったです。

高橋 来未(関1年)

「学生の特権」という言葉がとても印象に残り、自分も学生のうちに様々な方のお話を聞きに行こうと思いました。取材をしていく中で、代表取締役としての軸が感じ取れて、刺激を受ける良い機会になりました。